



2015年を振り返り・・・

次のステージへ 新たなチャレンジ

2015年、私たちは「次のステージへ、新たなチャレンジ」を合言葉にさまざまな取り組みをすすめてまいりました。国においては2025年（団塊の世代が75歳以上～国民の3人に1人が65歳以上・5人に1人が75歳以上～）に向けて、医療介護総合確保推進法による医療介護改革、医療機能の分化・再編、地域包括ケアシステムの構築がすすめられています。地域においては「医療構想（地域の医療提供体制の目指すべき姿）」の検討が開始されました。当院はこの一年、「病院の質・・・医療の質、看護の質、リハビリ療法の質」向上に向け職員一丸となって取り組み、地域の皆さまによりいっそうの期待と信頼を寄せいただける病院づくりに努めてまいりました。今年の2月、約2年に亘る病院創立30周年を機に取り組みました「病院増改築事業」が完了いたしました。この事業においては回復期リハビリテーション機能の強化（病床再編成、1看護単位60床から40床2看護単位の計80床へ）、入院療養環境の改善（食堂・談話室の拡充、トイレの全面改修等）、外来診療機能の充実（外来診察室の移転・全面リニューアル）、通所リハビリテーション機能の拡充（40人定員から80人定員へ）、職員福利厚生施設（食堂、更衣室）の改善・拡充を行いました。この間に、CT機器の更新、リハビリテーション機器の充実等医療機能の充実にも取り組みました。3月には電子カルテが稼働し、院内での患者情報の共有によるチーム医療のいっそうの推進に貢献し、滋賀県医療情報連携ネットワークへの参加も行いました。4月には新院長に関西医科大学より高橋伯夫先生を、リハビリテーション科に清水彰先生（前滋賀県リハビリテーションセンター所長）を迎え診療体制の充実が図られました。

また病院理念、基本方針の見直しを行い、新たな病院理念を「慈（めぐみ）の源“マザーレイク”」のように、琵琶湖中央病院は地域の皆さまの心と体のよりどころとなるよう努めます」としました。

秋に入り、国の今年度補助金事業によるスプリンクラー（火災時消火用自動散水装置）設置工事が始まり、来年3月に完成予定となっています。

新年早々からは、4A療養病棟の回復期リハビリテーション病棟転換のための病棟リフォーム工事が予定されています。今回の工事は当院がリハビリテーション医療を核とする「回復期医療」の提供病院としての機能をより発揮する、「病院進化」のための事業となります。これにより当院は回復期リハビリテーション病床130床（現在80床）、医療療養病床50床（現在100床）となります。また、地域の方からのご厚意により、院内保育所にある遊び場への遊具の設置、地域研修センタ視聴覚設備の充実を行うこともできました。地域の勉強会には例年ない回数のお呼びをいただき、多くの地域の皆さまとの交流を深めさせていただくこともできました。この一年、お世話になりました多くの地域の皆さまに感謝申し上げます。琵琶湖中央病院は来年もまた、皆さまからの叱咤激励をお受けし、成長を続けることをお約束させていただきます。どうか皆さまにとりまして来る年がすばらしい年でありませうように。



～協力・連携医療機関に登録～

当院は、大津赤十字病院、大津市民病院の協力医療機関、大阪医科大学付属病院の連携医療機関となっています。

年末年始休暇について

12月30日（水）～1月3日（日）は休診とさせていただきます。4日（月）より通常診療。